

## 令和2年度 第2回学校関係者評価委員会

日 時：令和2年3月26日（金）19：00～19：50

場 所：長崎医療技術専門学校 会議室

出席者：長尾 博、吉岡正恒、杉本直美、有福浩二、大坪 建

韋 傳春、荒木一博、岩永隆之、早野和之、林勇一郎

欠席者：分部哲秋

座 長：韋 傳春

### 1. 現況報告

#### ・第56回 PTOT 国家試験の結果報告

理学療法学科 全国平均 79.0%、医技専 80.6%（全体）

作業療法学科 全国平均 81.3%、医技専 85.7%（全体）

両学科とも全国平均を超えている。

作業療法学科の方で1名留年しているが、それ以外は全員受験している。

#### ・令和3年度入学者数の報告

理学療法学科 定員 40 名に対して、43 名入学

作業療法学科 定員 40 名に対して、30 名入学

昨年度と比較して、約 10 名程度入学者が増えている。

### 2. 出席者紹介

### 3. 校長挨拶（韋が代理）

### 4. 前回会議後の報告

2020 年度保護者アンケートからの意見への対応について（韋）

・HP の更新（行事予定や新型コロナウイルス感染拡大の対応策の更新している。）

・wifi 環境の強化をしている。

・全館 LED 化をしている。

・広報誌 POTNurture（第4号）発行している。

### 5. 開会

当委員会第6条の規定による出席数を満たしており、本委員会は適切に成立していることを確認する。

### 6. 委員長選出

委員長は、長尾 博先生で進めてさせて頂く。

### 7. 審議事項

『令和2年度 学校自己評価結果について』

荒木) 3/8～3/15 の期間で、教職員 15 名に対してアンケートを実施している。集計は平均点を算出して、過去 2 年分と比較して提示している。網掛けは、改善傾向にあると思われる項目と玄草醫事の3点に満たない項目に付けている。まずは表紙にある全体的な傾向から見て頂きたい。（以下、別紙に沿って説明）

アンケートは 10 項目で構成している。前回の評価結果の概略を説明しながら今回の結果を

報告する。「学校運営」については、昨年度までは2点台だったのが今年度は3点台となり、わずかであるが、向上している。新型コロナウイルス感染拡大の影響がありながらも、教育を止めることなく、タブレットを活用しながら、業務の効率化が図れたことが要因かと考える。

「財務」については、例年と変わらず点数が低く改善の余地がある。職員でありながらも実態がわからないという部分から、改善に至っていないと考える。「社会貢献・地域貢献」については、これも新型コロナウイルス感染拡大の影響により、地域の清掃活動ができなかったり、学生のボランティア活動ができなかった、対面の研修会に参加できなかったことが影響している。それ以外の項目については、現状維持ができていたという結果となっている。

次は、各項目における詳細な説明をする。今回はコメント内容を追記しているので、結果についての要因が確認できる。

「教育理念・目的」については、「理念・目的・育成人材像・特色等が学生・関係業界・保護者等に周知されているか」という部分で点数が上がっている。HPの更新や広報誌の発行したり、新型コロナウイルス感染拡大に対しての教職員の対応を見て、人材育成の考え方が伝わったのではないかと考える。

「学校運営」については、点数が上がっており改善が見られた部分である。新型コロナウイルス感染拡大の影響がありながらも、事業を止めることなく運営できたことが要因と考えられる。

「教育活動」については、概ね改善傾向がみられる項目が多いが、「関連分野における業界との連携において優れた教員の提供先を確保するなどマネジメントが行われている」、「関連分野の先進的知識・技能を習得するための研修や教員の指導力育成などの資質向上の取り組みをしているか」、「職員の能力開発のための研修等が行われているか」の3項目については低い点数となっている。新型コロナ感染拡大の影響にて、関連業界との連携や資質向上のための研修会の参加などができず、能力開発に繋がらなかったことが考えられる。

「学修成果」については、ほとんど3点台である。今年度も外部業者の国家試験対策プログラムを実施できたことやwebによる就職説明会を開催したことが影響していると考ええる。

「学生支援」については、概ね前年度同様の点数となっている。「課題活動に対する支援体制が整備されているか」の項目については、新型コロナ感染拡大の影響もあり、課外活動ができなかったことが影響している。

「教育環境」については、「施設・設備は教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか」の項目で点数が高い。Wifi環境が強化されたことや、全館LED化したこと、今年度入学者よりiPadを導入したことが、教育環境が整備されたと考える。

「学生の受け入れ募集」については、ここは例年と変わらず特に毎年力を入れているが、今年はほとんど対面でのオープンキャンパスはできなかった。対応としてYouTubeで配信してオンライン開催を行った。

「財務」については、実習費の収支が公表されたことで、実習の宿舍費や抗体検査の費用、PCR検査の費用などの問題について検討すべきであるとの共通認識ができた。

「法令遵守」については、例年通り3点台で変化なし。

「社会貢献・地域貢献」については、地域の里親地区の清掃活動や学生ボランティア活動ができなかったことが影響している。

以上に関して助言、意見ををお願いしたい。

長尾) アンケート結果は、厚生労働省もしくは文部科学省に報告するようになっているのか。

荒木) 報告するようにはなっていないが、情報公開するようにしている。

長尾) 新型コロナによる影響で、どのくらい対面授業ができたのか。

荒木) ほとんどは対面講義が行われている。オンラインで対応したのは、4月中旬からの3週間のみである。

長尾) オンラインでOCを開催した割には入学者が多いのは、オンラインの需要が高いのでは。

韋) ハイブリッド型で対応できるように、参加できなかった方にも対応できるように考えている。

大坪) オンライン講義の件で、ネット環境が整っていない学生に対する対応をどのようにしているのか。

荒木) LTEと自宅wifiにて対応できており問題はなかった。

大坪) 熱発者や県境移動した学生で、出席日数が不足した学生はいなかったのか。

韋) 自宅待機となった学生に対しては、オンラインにて受講できるように対応して出席扱いとしているため、そのような事態はなかった。

吉岡) 今後の医技専としてのwithコロナの考え方や徐々に通常の生活様式に対応するのか。

韋) 徐々に緩和してきている状況を見ると、生活様式を戻すことも考えているが、臨床実習のこともあるので実質緩和できない状況である。

荒木) 行事関係に関しては、できないことでストレスを感じているのでどうにかして工夫していきたい。

研修会関連はオンラインなどが充実してきているので徐々に参加するようにしている。

吉岡) 徐々に受験者数が減少する状況に対して、どのような対策案があるのか。

荒木) 長期計画でなかなか難しい部分であるが、求人の方が安定している部分を売りにしてPRしていく。

#### 『新型コロナウイルス感染拡大における本校の学生生活の変化に関する調査について』

荒木) 目的として、新型コロナウイルス感染拡大が長期化されている中、昨年度の学生生活実態を把握し、次年度の学生支援を検討するために調査機関は3/4～3/14で、全学年対象にアンケートを実施した。回答者は155/157名、回収率98.7%。

「Q1. 新型コロナウイルス感染症に不安ですか」では、ほとんどの学生がコロナ感染に不安をいだいている。「Q2. 日常生活に関連してどう変化していますか」では、睡眠の質と活動時間が減少した、体重が増えたという意見が見られた。「Q3. 日常生活に関連してご意見を書いてください」では、臨床実習のこともあり外食・会食禁止、体調管理、行動記録、行動制限など厳しい条件としているため、学生自身のストレスを感じていることがわかる。「Q4. 学校生活に何が不安ですか」では、どの学年においても臨床実習や解剖学実習、就職活動について不安を感じているのがわかる。「Q5. 学校生活に関連してご意見を書いてください」では、学年感での交流がなかったことや、昼食を自由に食べることができなかったという意見が多かった。あと、通学中の不安も見られた。「Q6. 1年間の精神及び身体健康感を教えて下さい」では、半分は変わらないという回答であったが、精神健康感は4割、身体健康感は3割が低下したという意見であった。

まとめとして、これからも感染対策は続いていくが、学生一人ひとりが感じるストレスに対してどのように対応していくかが考えていく。

以上に関して助言、意見ををお願いしたい。

有福) 学校独自の規定により、学生がストレスを感じているが、不安解消するための関わりをどのようにしているのか。

荒木) 通学中の不安については、時差登校をして学生が分散するようにしている。

韋) 夏の時期に学生の申出により、感染対策を十分に実施しながらスイカ割りを許可したことがある。そのように対応してもいいのではないかと思う。

荒木) 3年生を送る会の開催をオンラインで試みた。来年度は、医技専さるくを開催する予定。それにより少しでも上級生との関わりを持てるように企画している。

長尾) 今のうちに、ストレス発散できるように工夫していることはいいことであると思う。

杉本) 娘たちもどこにも出られない状況にストレスを感じていた。次女が県外の実習に行ったときに、他校の感染対策と比較して本校の感染対策が厳格であることを再認して安心感が得られた。臨機応変に対応している学校であることがわかり感謝している。

## 8. 総評

長尾) コロナの状況の中で、様々な対応をしていることがわかり感心している。

## 9. 謝辞

韋) 皆様のご協力のおかげで、国家試験も入学者においても今の良い結果があると感謝する。

## 10. 閉会

韋) これを持ちまして第2回学校関係者評価委員会を閉会する。

次回の学校関係者評価委員会は、令和3年10月29日(金)19:00を予定する。